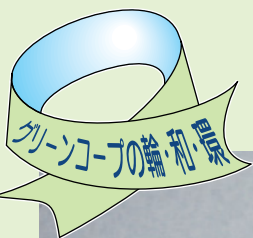




共生の時代

'09
12月

●発行:グリーンコープ共同体理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092 (481) 7923 FAX092 (481) 7876



グリーンコープ生協おおさか
託児スタッフコーディネーター

前田 いずみさん

プロフィール

福岡県北九州市で生まれ育つ。結婚を機に、夫の転勤で神奈川県や神戸など全国各地に。大阪に転居して5年になる。夫と高3、中3、小6、小1の子どもの6人家族

たくさんのお会いから人とふれあう喜びを知って

福 岡でグリーンコープの組合員だった関係で、おおさかの設立発起人の一人に。それまでの転勤地にはグリーンコープはなかったから大阪にグリーンコープを創ろうという話には大喜びした。設立当時は3歳だった下の子が小学校に上がる時、何かしようかなと思っていた矢先、託児スタッフ募集のチラシが目に入った。「何かお手伝いできれば」と軽い気持ちで説明会へ。そして、託児スタッフの一員になった。おおさは創立5年目、少しずつ組合員活動が活発になってきた。若い組合員も多く、理事会、委員会、つどい、組合員が集まる取り組みに託児は不可欠。託児スタッフは何人いても足りないくらいだった。「託児を担う側も子育て中ですから、預ける母親の気持ちがよく分かるんです」。子どもを預ける、後ろ髪を引かれるような気持ちや束の間、の解放感が伝わってくるから、

集会場に向かう時、「絶対的な安心感」をもってもらいたいと思う。その時の自分は「今抱いている子のママ」になる。「子どもが小さい頃、子どもとだけ過ごす時間に息が詰まることがありました。あの時こんなふうにならなくて良かった。今、おかあさんたちの息抜きのお手伝いができるのがうれしい」。託児中ずっと母親を求めて泣きっぱなしの子どもを抱っこしてあやすことがある。ふとその子と目が合うとびたつと泣き止み、心が通った瞬間を感じることがあるという。そんな子どもとのふれあいに喜びがこみ上げる。わが子の時はあんなにイライラしたのに。「自分の子にはできなかったことをしてあげられる」と先輩スタッフが言ったことがよく分かる。心癒される瞬間だ。今年4月、吹田センターの託児スタッフコーディネーターに任された。おおさかにあ

クリスマスキャンパ
に
ご協力を

11月末～12月

2009
from ネグロス
.....
クリスマス
キャンペーン



東ティモールの子どもたち

45面に関連記事

Contents

ホームレス問題を考える 9

あんたも わしも おんなじいのち
— 北九州ホームレス支援機構の20年 — 2

うちのメーカー・うちの生産者 ⑩

糸島BM農法研究会
ブロッコリー・ほうれん草・小さな白菜 3

互恵のためのアジア民衆基金設立総会

アジアに生きる民同士が互恵的に生きる
たすけあいと慈しみに溢れた「希望の船」が船出 4・5

～グリーンコープのこだわり再発見～ 国産丸大豆醤油 ちくご

こだわりが育てるほんもの 6

2009年度 子育て応援学習会

子どもの心をさく 一心のつばやきに耳を傾けて— 7

グリーンコープ生協ひょうごは、10月初旬初めての祭りを開催し、たくさんの方に来場いただきました。たくさんのお子さんが「元気くんぬり絵」を塗って持ってきてくれました。組合員活動の中でたくさんのお子さんとお会いします。ひょうごの組合員は、設立してすぐからびんに入った牛乳を飲んでいました。パンを注文すれば国産小麦を使っているのはあたりまえ。でも、パスタやライズ殺菌の牛乳を飲めるのも、国産小

送 信

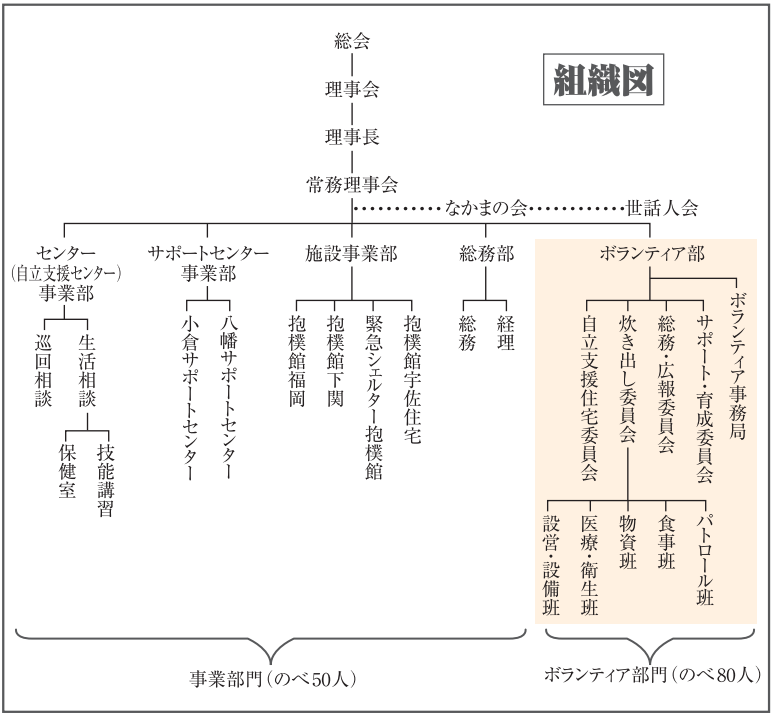
麦のパンを食べられるのも、先輩生協のみなさんが試行錯誤しながら作ってきたおかげ。そしてそれに応えてくれた生産者、メーカーさんのおかげです。活動の中で出会うこの子たちが大きくなって親になった時も、今、私たちがあたりまえに食えることができれば、先輩が作ってくれたこれらを次の世代にちゃんとつないでいかなければと思っています。

グリーンコープ生協ひょうご 理事長
長沼 浩美

あんたも わしも おんなじいのち

ー北九州ホームレス支援機構の20年ー

ホームレス問題を考える 9



- 1988/12 北九州越冬実行委員会発足
カトリック教会関係者と福岡日雇労働組合員による
野宿労働者の調査をおにぎり持参で行った
- 1990/06 事務局体制が整備される
- 1990/12 襲撃事件多発 2小学校、2中学校に抗議
- 1993/03 通年パトロール開始。医療関係者との懇談会実施
- 1994/11 越冬支援ライブはじまる
- 1996/01 小倉での拠点炊出し方式はじまる
- 1997/09 「北九州越冬実行委員会を支える会」の発足
- 2000/07 NPO法人の設立を決定し、名称を「北九州ホームレス支援機構」とする
- 2000/08 北九州市「(市役所前広場から)ホームレス炊出し排除」
- 2000/11 「NPO法人北九州ホームレス支援機構」認証
- 2001/03 八幡東区に「自立支援住宅」設置
- 2001/04 北九州市保健福祉局との対話はじまる
- 2001/05 自立支援住宅入居はじまる
- 2002/03 みんなの家「なごみ」開設。支援住宅での自立支援
プログラムはじまる
- 2002/07 「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」成立
- 2002/12 自立者による互助組織「なかまの会」発足
- 2003/01 「ホームレスの実態に関する全国調査」に協力
- 2003/05 厚生労働省より「無料職業紹介事業」を認可される
- 2003/07 「北九州市におけるホームレス問題の抜本的解決を
求める市民集会」を開催し要望書を北九州市に提出
- 2003/12 「福岡県ホームレス支援団体連合会」結成
- 2004/02 「北九州市ホームレス巡回相談指導事業」を委託される
- 2004/09 「ホームレス自立支援センター・北九州」開所。生活
相談指導事業を委託される(2009年4月より運営
のすべてを委託)
- 2004/09 福岡県保健福祉局監査保護課より担い手育成事業
を委託
- 2004/09 奥田理事長が第34回毎日社会福祉顕彰受賞
- 2004/10 厚生労働省より技能講習事業を委託される
- 2004/12 国税庁より「認定NPO法人」に認定される
- 2005/04 自立生活サポートセンター発足
- 2005/06 「ホームレス支援法律家の会」発足
- 2006/04 長期入院者退院促進事業・無料低額宿泊施設「抱撲
館海老津」開所(福岡県の委託事業)
- 2006/10 (株)サンキュドラッグによる募金活動開始
- 2007/01 自立支援住宅「抱撲館宇佐町」開所
- 2007/04 自立生活援助ホーム「抱撲館下関」開所
- 2007/06 ホームレス支援全国ネットワーク発足(奥田理事長
代表に就任)(現在45団体)
- 2007/07 九州ホームレス支援団体連合会発足(8団体ノ代表:
奥田知志 事務局は支援機構)
- 2008/09 社会福祉法人グリーンコープと協働で福岡市で巡回
相談をはじめる
- 2009/02 北九州市内にて「緊急シェルター抱撲館」を開所
- 2009/02 「ふくおか社会貢献活動表彰(NPO・ボランティア団
体と企業との協働部門)」を(株)サンキュドラッグ
と共に受賞
- 2009/03 奥田理事長がNHK番組「プロフェッショナル」に出演
- 2009/10 浄土宗主催「第3回 共生・地域文化大賞」で大賞受賞



のような光景が出現した。厳寒期の12、2月は毎週金曜日、他の月は第2と第4金曜日に炊き出しは行われる。終了後は公園まで来られない人のために小倉駅周辺はもちろん、海峡を越えて下関まで弁当を届ける。それが終わる頃には午前0時をまわっている。

第二部門は、「自立支援」。就労自立を目的として、自立支援住宅や抱撲館、自立支援センター北九州を運営する。そこを拠点に、「居宅設置支援」「就労支援」「保証人確保支援(保証人バンク)」など自立を果たすための機能を担う。また、就労自立を目的として、自立支援住宅や抱撲館、自立支援センター北九州を運営する。そこを拠点に、「居宅設置支援」「就労支援」「保証人確保支援(保証人バンク)」など自立を果たすための機能を担う。また、就

自立を果した人が再び路上生活に戻ってしまうことがある。全国のホームレス支援団体の中で、北九州ホームレス支援機構はこの

支援機構組織図は左上のようになっているが、その働きは三部門に大別される。第一部門は、「いのちを守る基礎的支援」。炊き出し、夜回り、そして「追い出し」や「襲撃」対応などさまざまな過酷な環境からホームレス者の生命を守る活動を行う。緊急の場合は救急車を呼び病院まで付き添う。「ひとりの路上死も出さない」覚悟で臨む。

支援機構に貫かれているのはボランティアリズムだ。誰に言われてするわけでもなく、自発的に関わる。支援機構の組織図上ではボランティア部門の比率は大きくないが、発足以来、この部門は多くのボランティア会員のマンパワーに支えられてきた。その80人の人たちの中には事業部門のスタッフとしてかかわっている人も多い。例えば、自立支援センター北九州の有給スタッフは常時1人当たり

10人のホームレス者の自立支援を担当しながら、ボランティアとしての動きもする。支援機構は、日常ギリギリの人員体制で運営しており、ボランティアの存在は生命線だと言える。炊き出しで配られる1回あたり約230食の弁当も持ち回りで作られる。実働はできないが、せめてカンパで支援したいという準会員は500人を超える。その他、多くの人のカンパに支えられている。

代表の奥田知志さんは言う。「自立と簡単に言うが、彼らを路上へと引き出した社会にもう一度帰るといふのはとても難しい。彼らが受け入れられる地域を創っていかねば」。人と人とが柔らかに関わりあえる地域創りが急務だ。

第三部門は、「ホームレスを生まない社会の形成」。自立を果した人が地域で孤独にならないためのアフターケアや、ボランティア養成、情報発信・啓発活動、行政との協同・連携事業。大学・病院・ボランティア団体とも連携し、ホームレス者を生まない社会の創造をすすめる。

労働が難しい人には生活保護申請の手続きなどをサポートしながら自立へ向かうための支援を行っている。これまで自立を果たした人は800人へのぼる。



割合が驚異的に低い(自立継続率94%)。理由は第三部門の充実である。公的支援は、自立支援センター北九州においてのみ、自立までと自立後1年間公的な支援が保障されているものの、それ以外の公的支援はない。いずれにしても、重要なのは自立後のサポートのあり方だ。支援機構ではあらゆる場面でサポート体制をとっている。一度ホームレスに陥った人に物理的にハウス(家)を提供するだけでは不十分で、ホーム(人との関係・絆)の回復が不可欠だ。それはその人が亡くなるまでの長期戦となってくる。真の支援とは、自立支援に留まらず人生支援となる。

炊き出し

ミッション

ボランティアリズム

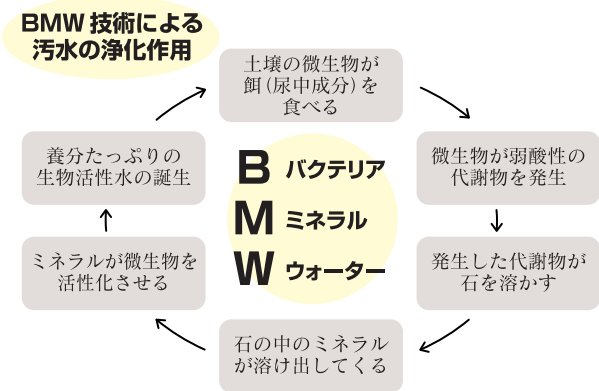
人生を支援する

※福岡市で開業する小宮医師がドクターカーを目前で調達し、北九州市、福岡市、久留米市でホームレス者の健診を行っている



後列左から、小川武臣さん、奥浩さん（事務局・JA糸島）、泊善文さん、溝口竹治さん、前列左から柴田周作さん、平野武美さん、宮本道興さん

BMWってなに？



泊さんのハウスでは、苗の植えつけ前に土に生物活性水をまいてシートをかぶせる。太陽の熱によって土中にある雑菌や雑草の種を殺したり、BMWによって菌のバランスをとることができる

自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

99年には「紅会」も会員に加わった。BMW農法によって人に自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

99年には「紅会」も会員に加わった。BMW農法によって人に自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

99年には「紅会」も会員に加わった。BMW農法によって人に自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ



小さな白菜

ブロッコリー

糸島BMW農法研究会

ほうれん草

会を立ち上げたのは1994年、JA糸島の呼びかけで有機農業に関心がある11人の農家が集まった。

それまで、メンバーのほとんどは農業を使う通常栽培をしていた。頻繁に農業を散布する作業に、「こんなに農業を浴びて、自分の身体は大丈夫だろうか？」。まずこの疑問が頭に浮かんだ。「この農業をかけた野菜を食べる人は？」。一つの疑問につられていろんな思いが錯綜する。「こんなことを続けてはいけない」という思いが募っていった。それは次第に、食べた人の顔が分かる、安心して食べてもらい、そして「おいしい」と言ってもらえる、そんな農業がやりたいという思いに変わっていった。

現副会長の溝口さんは、会発足以前から、糸島で畜産を営むグリーンコープの産直豚肉生産者「紅会」の当時メンバーの一人だった大町克之さんに生物活性水を紹介され使っていた。作物の苗にまくと苗にムシがつかなくなったり、元気になるなど、BMW技術の効力を実感していた。

そこで会は、本格的に「紅会」の指導を受け、BMW技術を無・減農薬栽培に取り組むことにした。その時グリーンコープとも出会い、取り引きをスタートさせる。1999年には「紅会」も会員に加わった。BMW農法によって人に自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

99年には「紅会」も会員に加わった。BMW農法によって人に自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

99年には「紅会」も会員に加わった。BMW農法によって人に自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

99年には「紅会」も会員に加わった。BMW農法によって人に自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

うちの生産者

91

福岡県前原市・糸島郡
糸島BMW農法研究会

うちのメーカー

福岡県の北西部、前原市から糸島郡志摩町にかけて、グリーンコープの産直青果生産者「糸島BMW農法研究会」の野菜畑がある。BMW技術を取り入れ、環境にも身体にも配慮した野菜作りを続けている。会長の平野さんをはじめ、メンバーの6人に話を聞いた。

農薬まみれの農業から脱却したい

栽培品目と出荷期間

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小ネギ	ニラ	ブロッコリー	白ネギ	ほうれん草	ミニトマト	カラーピーマン	スィートコーン	小さな白菜			



減農薬栽培のほうれん草にはカマキリも来る。害虫を食べてくれる頼もしい益虫だ

自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

99年には「紅会」も会員に加わった。BMW農法によって人に自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

99年には「紅会」も会員に加わった。BMW農法によって人に自然にやさしい農業が実現できるようになり、そこ

恵的に生きる 溢れた“希望の船”が船出

People's Fund for Mutual Benefit) が設立しました



イル・ペレイラさん
(東ティモール)

したもの、人々の生活
い。何とか自立できるよ
りたい。コーヒーだけに
い農業体系づくりを試み



ハリー・ユリ・サントさん
(インドネシア)

9月に起こった地震と津波で
3つの村が壊滅、少なくとも
700万人が被害を受けた。
ATINAのスタッフを派遣し支
援にあたった



サリム・アブー・ガザレーさん
(パレスチナ)

今なお、ガザには食料を運び込むこ
とさえできない。それはじわじわと
真綿で首を絞められているような…
まるで殺戮そのものだ。私たちは平
和に暮らしたいだけなのに



で挨拶をする
代表理事 田中裕子さん

会の余韻を残しての収穫祭
いただき感謝する。精一杯
で充実した一日にしたい

近の状況報告がありました。
れぞれ映像などを使って直
ら参加したメンバーからそ
その後、アジアの各国か
に私たちの役割を果たして
いきたい」と語りました。
その後、アジアの各国か
ら参加したメンバーからそ
その後、アジアの各国か

パ
ス
キ
ー
リ
ン
グ
ー
プ
月
人

パ
ス
キ
ー
リ
ン
グ
ー
プ
月
人

ネグロスとの民衆交易スタートから20年を機に新たな連帯を模索するために、2008年11月福岡市で「互恵のためのアジア民衆基金」の設立準備大会が開催されました。その後、本格的に起動するための設立総会に向けて準備をすすめてきました。2009年10月9日グリーンコープが連帯している韓国ドゥレコープの尽力を得て、ソウルで設立総会が開催されました。韓国からはもちろん、フィリピン・インドネシア・パレスチナ・東ティモール・パキスタンなどアジアの国々から、そして日本から、総勢202人が一堂に会しました。グリーンコープからは各単協の理事長をはじめ22人が参加しました。

一般社団法人「互恵のためのアジア民衆基金」の設立をとおして、アジアの連帯、そしてより広い国際連帯へと向かうこととなります。

互恵のためのアジア民衆基金設立に至った経緯

「互恵のためのアジア民衆基金」(以下、アジア民衆基金) 設立の背景には、20年という歴史を重ねてきた民衆交易の存在があります。20余年前、世界的な砂糖価格の暴落で「飢餓の島」となったネグロスへの緊急救援。それはやがてマスコバド糖とバナナの民衆交易を創出し、その対関係にネグロスの貧しい民衆の自立への闘いが展開されました。20年間のネグロスとの連帯の中で日本とネグロスだけの小さな点と点だった関係は少しずつアジアへと広がっていきました。インドネシアのエコシリンプ、パレスチナのオリブオイル、東ティモールのコーヒーなど、民衆交易をとおして、そこに生きる人々とつながりあえるようになってきたのです。民衆交易から見えてきたものは、日本をはじめ豊かな「北」の国々の経済が、「南」のアジアの国々の人々を苦しめてきたことでした。私たちの経済行為そ

世界恐慌の荒波を乗り越えるために

アメリカのリーマンショックを受け、世界は恐慌の様相を呈してきました。その状況に、20年間の民衆交易の実績をもとに南の民衆に対して何とか手を打てないかと、2008年4月に呼びかけ人会が発足。これまで民衆交易を支えてきたグリーンコープ、生活クラ

プ、大地を守る会など8団体が呼びかけ人として名前を連ねました。さまざまな検討を経て、1年前福岡で設立準備大会を開催、そして今回の設立総会へと漕ぎつけました。

設立総会は、ドゥレ生協連合会会長金栄珠さんの挨拶からはじまりました。「アジアを含むところで、力のない弱い生命が死にかかっている。かつて日本の母親らがネグロスの飢餓の子どもたちを抱きしめ民衆交易の土台を創っていったのと同じように、このアジア民衆基金を通じてアジアの民衆が互恵的に生きていく世の中を創るために頑張ります」と呼びかけました。

その後、第一号議案(設立総会)が採択され、第二号議案(定款および会費規定決定)、第三号議案(役員選出)が提案され、真剣な検討の結果満場一致で採択されました。設立時点での参加は21団体、代表には大地を守る会の藤田和芳さんが就任しました。最後に設立宣言が読み上げられ採択、設立総会は無事終了しました。

また、新たに日本の生協連合会きざりと韓国ハンサリム生協が今回アジア民衆基金に参加することが承認されました。1年かけて参加を検討してきたハンサリム生協の朴才一さんは、「アジア民衆基金の趣旨には最初から賛同していたものの、内部での検討に時間がかかった。参加できてうれし。今回の承認を受けて、ドゥレ生協と一緒に私たちの役割を果たしていきたい」と語りました。

その後、アジアの各国から参加したメンバーからそれぞれ映像などを使って直

一般社団法人「互恵のためのアジア民衆基金」設立宣言

私たちは本日、2009年10月9日、一般社団法人「互恵のためのアジア民衆基金」が適法な手続きを踏んで設立されたことを、ここに宣言する。

2年ほど前の2007年8月9日、ヨーロッパの短期金融市場(インターバンク市場)から突然資金が蒸発し、世界を横断して経済を支配し振り回してきた巨大な金融バブルが破裂した。膨張に膨張を重ねてきた信用は、この金融バブルの破裂を契機に急収縮を開始し、連動して、世界の实体经济も急収縮を開始した。アメリカを先頭に、世界各国の主要政府はこの急収縮を押しとどめるために、巨額の財政出動に乗り出している。しかし、今般破裂した金融バブルはあまりにも巨大であった。世界の主要政府がその国家財政を投げ打って押しとどめようとしても、埋めることが出来ないほどだったのである。

そして、この巨大な金融バブルの破裂は今、世界経済恐慌に転化する恐れすら出てきた。中国やインドがこれを挽回するかもしれないという主要政府の期待は幻想に終わる可能性がある。そうなれば、先進国では職を失った労働者が路頭をさまよう事態になるだろう。また、新興国では資金が枯渇し、経済活動そのものの途絶が避けられなくなるだろう。そして、世界の至るところで力のない子ども、女性、老人、障がい者などが、飢餓に苦しめられることになるだろう。

貨幣と信用は経済の成長と発展に不可欠なものである。そして、経済の成長と発展は、人間の生活の安寧に不可欠である。その意味で、貨幣と信用は、人間の生活の安寧に不可欠である。問題は、貨幣と信用が自走し、人間がこれに同調し、世界と世界経済とを破壊してしまったことである。すなわち、問題は、人間が貨幣と信用の言葉で語り、人間の言葉を見失っていることにある。

人間はしかし、今、助け合い、慈しみあい、やわらかく、しなやかな連帯関係の中に生きるほかはないことをようやく発見しようとしている。本日、北の市民と南の民衆が助け合い、慈しみあい、やわらかく、しなやかに連帯する一つの試みとして、一般社団法人「互恵のためのアジア民衆基金」が誕生したことがその表れである。人間は、これからは貨幣と信用の言葉から解放され、助け合いと慈しみあいの言葉、すなわち、人間の言葉を新しく紡(つむ)ぎだしていくことによってしか生きることができない。

私たちは、人間が助け合いと慈しみあいの中に生きる未来を信じる。そして、本日誕生した一般社団法人「アジア民衆基金」に集い、背筋を伸ばし、連帯して、毅然と前に歩いていくであろう。確かに、「互恵のためのアジア民衆基金」が当面なしうることは、悲しいほどにわずかである。人間の貧しい言葉が招来した世界恐慌が、音を立てて、世界中で人間の生活を破壊し尽くそうとしている中で、私たちがなしうることは本当にわずかである。しかし、私たちは、わずかであっても、なしうることを全力でなしていきたい。そして、そうした私たちの懸命な取り組みをとおして、私たちが掲げる人間連帯の灯火が、将来、世界の人々の希望を照らすものになるだろうことを確信する。

以上、宣言する。

2009年10月9日
設立総会参加者一同

「互恵のための
アジア民衆基金」
設立総会

アジアに生きる民同士が互恵的 たすけあいと慈しみに溢れ

「互恵のためのアジア民衆基金」(Asian People's)



韓国の詩人 金芝河さん

2008年11月福岡市で、「互恵のためのアジア民衆基金」設立準備大会が開催されました。その報告集会の記念講演として、韓国の詩人・金芝河さんの話がありました。その講演内容が難解だったという感想が多かったことを受けて、2009年1月「40万人食べものアンケート」報告会の中で「互恵のためのアジア民衆基金」設立発起人の一人である行岡良治さんによる解説がありました。その要旨を紹介します。

互恵を前面に、交換を日常に、再分配を準備して

「交換」の歴史

人間は生きるために太古から物を交換してきた。その最も古い形が「互酬」、「贈る」、「お返しする」という行為だ。「互酬」という言葉には金銭的な取引イメージがあるが、韓国では互いにたすけあう「互恵」というニュアンスが含まれている。

その後、農業革命などが起きて共同体が誕生し、その下で人間が生産活動を営むようになった。共同体はすべての生産物を集約し、生産者らに適切に分配するようになっていく。やがて直接物を交換する物々交換という歴史を辿っていった。それが「買う」という意味あいになり、それと対関係で「売る」行為が発生した。このように「互酬」、「分

私たちは新しい時代をどうすすむべきか

配、「交換」の形が展開され、時代と共に変化してきた。

金芝河さんは、今の経済構造の破綻は歴史的に見て明らかだと言う。金融バブルが破裂した今、残る資本主義も限界にきている。世界経済の崩壊を前に、人は次にどのような経済システムと社会を構築し、どうすすむべきかを真剣に考えるべき時を迎えている。目前の絶望や不幸が多い時、人はヒトラーのような人物を求め英雄視してきた。それによって世界中が戦争へ引きずられていった過去を忘れてはならない。私たちは権力によって生命の尊厳が無視される事態を何としても避けたい。そのようなものに希望を求め



収穫祭
生命を育む多くの実りと与えてくれた土地と神の恵みに感謝する儀式。グリーンコープから一番搾りなたね油の花物語を捧げた



ダニエル・ペレイラさん
(東ティモール)

独立はしたものの、人々の生活は苦しい。何とか自立できるようにになりたい。コーヒーだけに頼らない農業体系づくりを試みている



収穫祭で挨拶をする
共同体代表理事 田中裕子さん
設立総会の余韻を残しての収穫を準備いただき感謝する。精進して充実した一日にした

韓国での 設立総会開催の意義

設立総会開催を一手に引き受けてくれた韓国のドゥレ生協連合会は、ソウル郊外で展開する生協で約5万人の組合員がいます。グリーンコープとの関係は深く、「ピョンファ・エ・ダリ韓国への旅」での交流や、組合員・職員のグリーンコープへの研修・交流も毎年行われています。2年前からバランゴンバナナの民衆貿易を開始、今年から子どもたちによるネグロスツアールにも取り組みはじめました。

たすけあいの精神が支えた 経済の仕組みとは

金芝河さんによれば、約2000年前、アジア各地で「互恵市場」という市が盛んに開かれていた。主に地震や洪水などの自然災害で被災した地域で開かれ、人々は食料をはじめとする生活物資を被災地に運び、格安で提供した。当然売り手は損をするが、復興後、再びそこで市を開くと、お返しにと通常値で買い取るというシステムになっていた。

しかし、それだけでは、格安で販売した人たちが救済されないケースも当然出てくる。そうした場合は、国が再分配することによって、救済していた。そして、そうした再分配を支えていたものこそ、人々のたすけあいの精神であり、私たちのめざす道だ。

パレスチナオリーブ オイルセミナー

主催
グリーンコープ
共同体
2009年
10月5日(月)
福岡市
参加者 125人

PARC (パレスチナ農業復興委員会) のサリム・アブー・ガザレーさんは、講演で次のように話しました。「昨年末の、イスラエル軍による空爆から停戦後も、依然としてガザ地区の人々の困窮と苦しみは続いています。日本からの支援金で準備された救済物資『フードバスケット』さえ、検問所を通る際イスラエル政府によりさまざまな厳しい制限を受け、思うように人々の手に届けられません。ガザは檻のように外界から遮断され、孤立させられています。私たちはただ普通に暮らしたいだけです。経済の要である農業・オリーブを育て、オリーブオイルをつくることは抵抗であり闘いです。だから切られても切られてもオリーブの木を植えるのです」。

PARCは現在、ガザへの支援の食料を、検問所を通らず、ガザ地区内で調達する準備をすすめています。それは大きな損害を受けたガザ地区の生産者の支援、及び農業の復興にもつながるといいます。私たちがオリーブオイルを利用し続けることは、パレスチナの人々の歴史、希望、将来を守ることにつながっていくのです。

「互恵のためのアジア民衆基金」も、そういった志に根ざしている。この取り組みは、国際レベルで連帯できる新しい経済システムとして発展させるべきだ。

「互恵を前面に、交換を日常に、再分配を準備して」との言葉どおり、まずは物資・資金が準備されていないことにはたすけあいのものが成り立たない。また、生活すべてをたすけあうには限界があるから、日常はノーマルな交換(売買)を行う。そのノーマルな形の前面に、あくまでもたすけあいの志が立っているべきであり、不足部分をちゃんと補えること、すなわち「再分配」ができる仕組みづくりが今後の課題だ。

たすけあいの理念を 貫く先に希望がある

グリーンコープはたすけあいを基本原理にしている組織

だ。生産者への生産奨励金やホームレス自立支援、生活再生事業、福祉活動組合員基金などには組合員のたすけあいの精神が生かされ、豊かに育っている。「人間がたすけあう」という関係の中で営まれているような風景を創り出していくことが、人間が掲げる新しい社会のカタチなのではないだろうか。

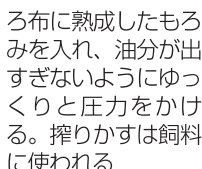
金芝河さんは「これから世界は、類を見ないほどの急激な転換を迎えるだろう。その時こそ、人間の本当の主体が問われる。目の前の現象に振り回されるのではなく、今後の社会がどう変化しようとしているのかを見据え、未来に向かって大胆に歩をすすめていくことが必要だ」と言っている。私たちがめざす方向とは、人と人がたすけあう社会にほかならない。誰もがたすけあえる日常の中にこそ、真の豊かさがあると思う。



こだわりの育てるほんもの

「醤油の『ちくご』という名称も、グリーンコープの組合員さんへの公募で決まりました。豊かな筑後川がイメージできる商品名だと思います。そして、ちくご醤油でなければと言つてくれる組合員さんがたくさんいてくださる。木桶での天然本醸造という伝統を守り、醤油を作り続けてきて本当に良かった。醤油作りの冥利につきます」という深町さん。

グリーンコープのこだわりは、こうしたメーカーと共にあります。



2009年度
子育て応援学習会
グリーンコープ共同体
福祉委員会

子どもの心をきく

— 心のつぶやきに耳を傾けて —



10月22日、福岡市で子育て応援学習会が開かれ、組合員110人が参加しました。講師は「ことばと心の相談室」カウンセラーで、看護や福祉の現場で講師として活躍中の佐世省吾さん。子育て中に限らず、若い世代を育てるすべての人に向けたお話でした。

講演要旨を紹介します。



講師 佐世 省吾さん

心理学、教育学、音声学、音響学を基礎にした言語病理学を習得し、2000人を超える人の相談・治療を行ってきた。1965年、言語治療教室を開校。社会福祉法人グリーンコープ評議員。NPO法人心の支援センター理事長

よく大人は子どもに対して「この子はなんぼ言っても分かんない」と言いますが、分かんないのはあたりまえです。そこには「話して分かんない関係」ができていないからです。関係ができていないと、何を話しても分かんない。相手のことを「困った」と思う時点で関係が壊れているのです。

最近の凶悪事件の若い犯人に共通しているのは、「自分のことを分かってくれる人がいない」という状況の中での「自己否定」、「自己存在の薄れ」です。「大切にされてる」という実感、自己肯定感、自尊心感情こそ



▲佐世先生のレクチャーを受ける。「肩の力を抜いて、猫や小さな子どもがするのように。イイイイという動作は、力が抜けストレスを和らげます」



▲呼吸セラピーやボディワークを実習。会場で緊張もほぐれた

今日から直ちに、子どもや他の人に対して「冷たい息」であるマイナスの言葉をやめましょう。言葉は声、

「診断」「評価」「解釈」ではなく「共感的理解」。それぞれの役割・違った個性で、相手と関係するには、お互いが違いを認めあい、「息」を合わせていく。人間は自分のことを受け入れ、分かってくれる人のことは好きになります。そして人は好きになった人の言うことは聞けるのです。

相撲の立ちあいでは、両者の息が合っていないと仕切り直しをします。私たちも、日常生活の中で人間関係の仕切り直しをしてみてはどうでしょうか。

子どもをのびのび育てるには、親の持っている不安や悩みをなくすことが大事です。どうすればなくせるか。精神分析的には、口から出すのが一番よい方法です。そのためには、何を打ち明けても、そっくりそのまま分かってくれる人の存在が必要。それとソフトな心と身体です。ストレッサーに対してガツリ構えるとボキッと折れます。心と身体を力を抜きましょう。呼吸セラピーやボディワークによって、緊張がほぐれ血流がよくなります。まずは自分自身が優しくうれしく楽しく過ごすことです。それは必ず人に伝わります。相撲の立ちあいでは、両者の息が合っていないと仕切り直しをします。私たちも、日常生活の中で人間関係の仕切り直しをしてみてはどうでしょうか。



No.17

原子力発電は本当に必要なのでしょうか？

私たちは唯一の被爆国として原子爆弾の圧倒的な破壊力を体験した国民です。原爆と同じ核分裂反応を利用して得た熱を、電力に換えるものが原子力発電です。原発事故の恐怖はもちろんなのですが、全国の原子炉で燃やされたウランの燃えかす（核分裂生成物＝死の灰）は青森県六ヶ所村に埋め捨てにされ、その埋められたものが安全になるまで、低レベル放射性廃棄物でも300年かかり、その間、国が管理するという事です。300年、気の遠くなる年月を責任を持って管理できるのでしょうか？まて、高レベル放射性廃棄物は安全になるまでに100万年もの年月がかかるのです。人類の歴史と比べたらその長さは半永久的に毒性を持ち続けているのと同じです。

人間の英知で原子力に頼らない暮らしはできるはず。脱原発社会をめざしましょう。

グリーンコープ共同体組織委員会

投稿欄

投稿募集中

●私の好きなグリーンコープ商品

- 400字程度
- 〆切 毎月末
- 住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
- 住所・氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561
福岡市博多区博多駅
中央街8-36博多ビル7F
グリーンコープコミュニケーション
ワークス連 (REN)
「共生の時代」編集部 宛

FAX 092-481-7876
Eメールアドレス
rikoho@greencoop.or.jp

グリーンコープ生協ふくおか
竹下 千鶴

グリーンコープ生協みやざき
佐藤 智子

言・い・た・い

私の好きな
グリーンコープ商品

大好きな「グリーンコープの
みかん、みかん」



王隠堂農園の小梅干



この時期になると毎年届く「予約みかん」。「ねえ、グリーンコープのみかん、まだ？」と子どもからせかされる。とにかくみかんはグリーンコープが一番おいしいと思っていられる。実際、本当においしいのだけれど。こんなにも子どもが楽しみにしているみかん♡♡

やっ、みかんが届くと、普段は商品が届いても気にもせずゲームをしているわが子が「みかん、みかん、みかん」と飛んでくる。そして5、6個、一気に食べ「あ、グリーンコープのみかんはやっぱり最高やね」と満足顔。ビタミンCもたっぷり体内に取り入れ、今日も元気に学校へ「行つてらっしゃい」と送り出す。

これからのおいしいみかんをよろしくね。

グリーンコープ生協ふくおか
竹下 千鶴

グリーンコープ生協みやざき
佐藤 智子

いま地域を考える

No.196

読み聞かせで 子どもたちの夢が広がる時間を



▲後列左から南館さん、内山さん、堀池さん、高倉さん、橋本さん。前列左から大石さん、嶋村さん。黄色は「ゆめたいむ」のイメージカラー

4年生の図書の時間。▶
絵本の読み聞かせの様子



福岡県京都郡苅田町で活動する「ゆめたいむ」は、同じ小学校に子どもを通わせる母親の有志で結成された読み聞かせグループだ。現在小学校などで読み聞かせ活動をしている。

代表の嶋村葉子さん（グリーンコープ生協ふくおか組合員）、メンバーの大石千恵子さん、南館雅子さんに話を聞いた。

ゆめたいむは、絵本好きな母親たち8人が11年前に立ち上げたグループだ。近頃では、ほとんどの小学校に、母親を中心とした絵本の読み聞かせグループがあるという。しかし、ゆめたいむが活動を始めた頃は、学校でボランティアグループが活動するのは前例のないことだった。四代目の代表を引き継いで4年目になる嶋村さんはい

う「最初にはじめての人たちは大変だったと聞きました。学校で活動するために何度もお願いに行ったそうです。高いハードルを越える時、そこにはひととき情熱的な人たちがいる。ゆめたいむをはじめた人たちの、子どもたちに絵本の楽しさを伝えたいという思いは相当に強かった。子どもの成長に合わせて、かわるメンバー

も入れ替わりながらも、「子どもたちと絵本をとおしてゆめのような時間を共有したい」という当初の思いは、ゆめたいむの中に変わらず流れている。それが名前の由来にもなっている。

自分の楽しみとして

主な活動は、子どもたちが通っている小学校での読み聞かせ。朝自習時間の「朝ゆめ」は、低学年の各クラス（3クラス）で週2回。昼休みの「昼ゆめ」は、ゆめたいむの部屋で週1回。「図書ゆめ」は1〜4年生（月1回クラス単位）と、高学年（年3回）図書の授業として行う。年数回は保育園や幼稚園、図書館からお話会の依頼がある。

活動費は、謝礼や行政からの補助、グリーンコープの福祉活動組合員基金からの助成金を充てている。それらは絵本や読み聞かせに関する書籍の購入、大型絵本やペープサートなどを作るための材料費として大切に使われる。

「ボランティアの気持ちではじめましたが、今では自分の楽しみです」と微笑む嶋村さん。地道な活動で学校との信頼関係ができ、今では先生からいろいろなことをお願いされるという。空き教室を「ゆめたいむの部屋」として使えるようにもなり、本棚にはこつこつと揃えた本たちが並んでいる。ちよつとした図書室のようだ。先輩たちがつくったベースがあるからこそ楽しんで続けられる。長く続いているのは、「自分も含め、みんなが楽しんでいるから」と、3人は口を揃える。

◀図書館まつりにてお話し（パネル）



▼図書館まつりにて



◀ゆめたいむの予定表と絵本のリスト



読み聞かせの醍醐味

大石さん。

図書の時間の「図書ゆめ」では、授業の枠を使わせてもらえる。ひとつの授業となると、絵本の読み聞かせだけでは子どもたちの集中力は続かない。基本の読み聞かせの間に、手遊び、パネルなどのお楽しみをはさみ、最後にメンバーからおすすめの本を紹介する。「子どもたちの反応を見るのがおもしろい。低学年は特に絵本の世界に入り込みます。高学年では、ちよつと難しい内容の本も選びます。例えば環境や平和に関する本。おしつけがましくなく、自然と考えさせられるのがいいです。本の紹介ではちよつぱり自分の思いを伝えたりもします。紹介した本に予約が殺到したときは「やった！と思います」と熱く語る

嶋村さんがゆめたいむに入ったばかりの頃のことだ。「自分ではあまり気に入らず、手に取らないだろうな」と感じての地味な絵本の読み聞かせをしたんです。すると子どもたちが聴いてくれないんです。失敗したなと思って数年間は絵本の敬遠してました。3年ほどして、再びその本を読むことになった。自分にとっては「いわく付き」の本。ところが驚いたことに子どもたちが食い入るように絵本を見つめている。時折、笑顔も見せ、集中が途切れな

い。「あの時はきつと自分が『つまらない』と思っていたが読んでいたから、それが子どもたちにも伝わっていたのだと気付きました」。そんな、ふと見過ごしてしまいがちな小さな発見にも、読み聞かせの醍醐味がある。

夢の時間は広がり続ける

ゆめたいむでは読み聞かせに使った絵本を学年ごとにリストアップしている。10数年の積み上げの成果であるこのリストは、共有の財産として役立っている。また、読み聞かせで使った本が読みたい子の手に渡るように、毎月のスケジュールと本のメニューを地域の図書館に届けている。これを見れば、いつ、どの学年でどの本を使うか一目瞭然だ。図書館側も活動に協力的で、おすすめの本紹介などどうまく連携してくれる。お互いに「この本を読みたい」という子どもたちの気持ち、本との出会いを何より大切にしているのだ。

「これからずっと、長くゆめたいむを続けたい。ここで育った子どもが大人になって、一緒に読み聞かせができれば、夢みたいですね」と嶋村さんは瞳を輝かせる。その夢はメンバーの共通したものだ。ゆめたいむの夢は、そう遠くない将来きつと叶うことだろう。

2009年10月の組合員数 412054人 リユース リサイクル データ 2009年9月分

牛乳びん	リユースびん	トレー	モールドバック
回収本数 1,067,877本 回収率 99.1% (8月16日～9月19日回収分)	回収本数 205,036本 回収率 66.8%	回収重量 11,797kg 回収率 51.3%	回収重量 33,220kg 回収率 102.9%

放射能汚染測定結果報告(193) 2009年9月

検体名	産地	セシウム134	セシウム137	合計 ベクレル/kg
※ さつまいも	宮崎県	ND	ND	ND
※ スパゲッティ	国内	ND	ND	ND
※ オリーブ油	ギリシャ	ND	ND	ND
※ ホワイトペッパー	インドネシア	ND	ND	ND
※ 鶏飼料 (GC産直たまごの鶏の飼料)		ND	ND	ND

放射能汚染食品測定室検査。
NDは、検出限界値(1ベクレル/kg)以下です。
※は、グリーンコープ連合取り扱い商品です。